



宮崎県同教では
あらゆる差別解消に向けて
活動しています。
機関誌「かいほう」では
人権・同和教育に関する
情報をお届けしております。

今回は一部を紹介します



子どもをとりまく状況は、いじめ・貧困・虐待など様々な問題が複雑に絡み合い、『不登校』や『荒れ』という現象として大人に訴えてきます。このような子どもたちの心の叫びに私たちはどう向き合えばよいのでしょうか。
ある学校での出来事を例に日常の取り組みを通していくつかの課題を見つめたいと思います。

日々の取り組みの中で

小学校に勤める明子は今年 6 年の担任になった。学級の雰囲気は落ち着きがなく、教師に対する暴言や SNS によるトラブルが頻発していた。

そんなある日、休み時間に保健室に行く雅人と出会う。「どうしたの?」「体調が悪いの?」と問いかけると雅人は「実は」とシャツをまくり上げた。腕には数本の切り傷があった。理由を聞くと、朝方母親と口論になりいたたまれずカッターナイフを手にとったという。

雅人の家は母子家庭で中 3 の姉が私立高校に進学を考えているという。姉の私立高校進学に関わる費用のことで最近母親がイライラしていたことが口論の原因のようだ。

明子はすぐに学級の授業を教頭をお願いして、母親に連絡をとり、家に向かった。

家に着いて母親に学校での一連の出来事を話した。母親は泣きながら姉の進学費用を工面することが出来ないことを打ち明け、自分の不甲斐なさで子どもを追いかけていたことを責めた。

明子は高校進学に必要な費用、『就学支援金制度』『奨学金』のことを調べ、母親に中学校から話があったかを聞くと、「聞いた覚えがない」と言う。明子は資料をもとに一通り説明をした。

その後、雅人は落ち着きを取り戻し卒業を迎えた。雅人が中学に入学する際、家庭状況に加えてリストカットのこと、その原因が経済的な理由によること、『就学支援金制度』や『奨学金』のことが母親に伝わっていなかったこと等の申し送りをし、気にかけていて欲しいことを付け加えた。

子どもの捉えと気づき

保健室に向かう雅人を呼び止めたのは何故か。体調を心配する明子に雅人がリストカットのことを打ち明けたのは何故か。

明子が雅人のことを気にかけていたことが大切な瞬間へ

子どもの小さな変化を見逃さない”気づき”に繋がりが、その積み重ねが「実は」と本音を語れる関係を作り上げていった。

学級の中には「忘れ物が多い」「宿題をしない」「遅刻が多い」子どもたちがいます。「ダメな子」として否定的に捉えるのではなく、気になる子どもには“何かあるのではないか”と考え関わるのが大切です。その関わりからこれまでとは違う子どもの姿に気づかれ、子どもの捉え方が変わっていきます。

その他

- ・ 事実と現実に触れるための家庭訪問
- ・ 進路を保障するということ
- ・ 影を落とす子どもの貧困 等...

子どもたちの背景に目を向けることから始めましょう

宮崎県同教とは?

宮崎県人権・同和教育研究協議会（略称：県同教）は部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすために 1975 年に設立しました。これまでの子どもへの寄り添いの経験から、子どもが背負われている“きつさ”に目を向けることで、子どもたちを繋ぎ反差別の仲間（学級）づくりを進めてきました。「差別の現実から深く学ぶ」ことは、部落差別以外の人権課題においても、その差別性・問題性を捉えるときに変わらない有効な視点となっています。

私たち宮崎県同教はこれからも、あらゆる差別解消に向けて尽力して参ります。是非、あなたも子どもの育ちとともに寄り添ってみませんか?

どんな人たちが加入しているの?

学校では管理職の方々をはじめ、教職員の皆さん、その他行政関係の方々、宗教関係者、幼稚園や保育園・所にお勤めの方、一般市民と幅広く多くの方が加入されている会です。

1 機関誌

『かいほう』をお届け

県同教が発行する人権・同和教育に関する機関誌

2 全国や九州で開催される

大会や講座に参加可能

九州地区人権・同和教育夏期講座や
全国人権・同和教育研究大会に参加できます

3 各県で開催される

人権・同和教育研修会をご案内

年会費 3,000 円

※機関誌「かいほう」購読料、地区同教会費 500 円含む